

■ 会議概要

第9回鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会

◆日 時 令和3年3月17日(水)10時00分～11時30分

◆会 場 鶴岡市役所別棟2号館 21-23会議室

◆出席者

佐藤滋委員（会長）、高谷時彦委員、野堀嘉裕委員、渡部幸委員、阿部博行委員、酒井忠久委員、粕谷典史委員、堀誠委員、渡邊勝委員（代理森川道夫氏）、村上良一委員、石塚健委員、伊藤義明委員、秋野公子委員、阿部良一委員、勝木正人委員

◆欠席者

遠藤健悟委員、稲泉眞彦委員

◆傍聴者

なし

◆次 第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 委員紹介

4. 協議

(1) 令和2年度の事業報告・進捗評価及び令和3年度事業計画について

(事務局より、各事業について説明)

会長職務代理

ただ今の説明についてご質問はありませんか。

(特になし)

会長職務代理

それでは、令和2年度の事業報告・進捗評価及び令和3年度事業計画について承認という

ことよろしいでしょうか。

(異議なし、承認)

(2) 鶴岡市歴史的風致維持向上計画の一部変更について

(事務局より説明)

会長職務代理

ただ今の説明についてご質問はありませんか。

委員

大宝館の記述について、これまで「擬洋風建築物」と記載していたものを「洋風建築物」と変更するということだが、大宝館自体での説明は「擬洋風建築物」となっていないのか。また、「擬洋風建築物」から「擬」を削除する理由をお聞きしたい。

事務局

大宝館は、以前は「擬洋風建築物」と表記をしていましたが、それは明治時代の建築物については、洋風建築物に似たような形という意味で「擬洋風建築物」という取扱いでした。大宝館は、大正時代に建てられているので、洋風建築が確立された後の建築ということ踏まえて「洋風建築物」と表記を変更するものです。これについては、文化庁からも確認を得ております。今後の発行物では、大宝館の表記について、随時、「擬洋風建築物」から「洋風建築物」に修正をしていきたいと考えております。

委員

擬洋風建築物には、西田川郡役所とか旧鶴岡警察署もあるが、これらは明治時代の建築物。大宝館は大正の初期の建築物であるが、時代によって、明治時代は擬洋風建築物、大正時代は洋風建築物とするということなのか。和洋混在とか、建物の中身によって判別するという事ではないのか。

事務局

明治時代後期になると、洋風建築が確立されておりますが、それをもって時代によって擬洋風建築物か洋風建築物か一般的に分かれるということではなく、大宝館については、文化庁の担当者から現地を確認してもらい、洋風建築物だという判断をもらっているということでもあります。

委員

市で発行しているパンフレット等では、順次、「洋風建築物」という表記に差し代わってい

くということになるのか。

事務局

今後、そのようにしていく予定です。

会長職務代理

他にご質問はありませんか。

委員

一点、要望があります。全般的な話となりますが、県土利用政策課では平成 27 年よりやまがた景観物語おすすめビューポイントを展開しております。県内で大分浸透してきている感触はあるのですが、鶴岡市歴まち計画に関するところでは、松ヶ岡開墾場、羽黒山五重塔の二か所の指定がございます。松ヶ岡開墾 150 周年に当たることもあり、何かの機会で、鶴岡市歴まち計画上でも取り上げていただくよう検討をお願いしたいと思います。

会長職務代理

今のはご要望ということで、事務局に対応をお願いしたいと思います。他にご質問はありませんか。

会長職務代理

それでは、鶴岡市歴史的風致維持向上計画の変更について承認ということでよろしいでしょうか。

(異議なし、承認)

会長職務代理

それでは了承ということでよろしく願いいたします。その他、協議事項全般について、委員の皆さまから何かございますか。

会長

鶴岡公園正面広場の実施設計について、今年度にワークショップを行ったということだが、その中でどのような意見が出てきたのか、教えていただきたい。

事務局

今年度開催したワークショップについては、まずは鶴岡公園内を見て歩きながら、どうあるべきかということを考える現地視察を行いました。その後の意見交換では、例えば近隣の高校生から、鶴岡公園には「暗いイメージがある」であったりとか、「虫がたくさん発生するため行きにくい」といった、過ごしやすい場所ではないという意見がありました。今回、そ

ういった色々な意見を反映させ、園路灯をつけるなど、安全安心に過ごせる場所、明るい場所を目指すという取組みを行っていきたいと考えております。

会長

工事は来年度からということだと思うが、鶴岡公園は歴史的に非常に重要。また、石が使われることになるようだが、歴史的に間違いのないようにしてほしい。園内にかつての石が埋まっていたりした場合、それをどう評価するかが非常に重要と思う。鶴岡にはそれぞれの分野で専門家がたくさんいる。専門家にしっかり意見を伺って、工事に反映していただきたいと思う。

事務局

ご意見ありがとうございます。ワークショップでの意見は先程のとおりでございますが、鶴岡公園懇談会の意見の中には、ただ今のご意見にもありましたとおり、金峰石や土塁の話も含めて、歴史的な見地のご意見をいただいております。この点、ぬかりないように努めていきたいと思っております。

会長職務代理

貴重なご意見ありがとうございました。

委員

鶴岡公園内堀周辺道路修景事業についてだが、整備すること自体は大変いいことと考える。ただし、どういうテーマでの整備なのか、また、ワークショップ等でどういう意見があったのか、どういう議論だったのかが気になる。というのも、基本的には歩行者がゆったり歩ける環境の中を、車が配慮しながら通行するというのが理想的と考えるが、このスケッチを見る限りでは、車道と歩道がしっかり分けられていること、また、両側が同じような歩道幅なのが気になる。必ずしもそうでなくてもいいのではないかと思う。また、歩道部分の着色についてのコンセプトはどういったものなのかを教えていただきたい。

加えて、羽黒の修景整備補助事業についてだが、今後とも続けていくことが重要である。市としてどのように考えているのか、また、地元からの要望があるのか等含めて、どのように今後扱われていくのかを教えていただきたい。

事務局

ご質問の一点目、道路修景整備に当たっての考え方ですが、歩行者の安全対策が一番であり、それに伴い、鶴岡公園周辺での回遊性を高めていくのが目標となっております。当初計画では公園側歩道を広くとっていましたが、ワークショップを行ったところ、参加者より高校側をよく歩くという意見があり、歩行者の安全性をより高めるため、高校側を 50cm 当初より広げることとしております。一方で公園側にも十分な幅員は確保できておりますので、鶴岡公園周辺での回遊性も高めていけるものとして、整備を進めてまいりたいと考えており

ます。

二点目の歩道の着色でございますが、事務局で3色ほど提案をしておりました。石畳のような色合いや弁柄色など、当初は様々な案がありました。最終的に車道の色と類似するものを省き、色々な議論の中で現在の色に落ち着いたものと認識しております。

事務局

三点目の宿坊街修景整備補助についてですが、計画上では令和3年度までとなっておりますが、これまで25件、来年度9件の予定と、実際目に見える成果が現れております。また、休憩ベンチ製作、軒先に設置する提灯製作など住民主体の活動も行われており、景観まちづくりへの理解、関心が高まってきているものと考えております。これからは、こういった事業の成果を評価するとともに、地域の方々のご要望を伺いながら、総合的に判断してまいりたいと考えております。

委員

是非継続いただければと思います。

委員

令和3年度も修景整備補助事業については事業継続ということで、大変嬉しく思っている。当初は宿坊が中心であったが、事業が続く中で、一般住宅でもご協力をいただけている。街並み整備が宿坊だけでなく、住民の願いであるのだと思う。これからも整備を継続していくことで、非常に立派な街並みになっていくと思う。また、形として見える街並みだけではなく、「講」という文化も継承していきたい。

会長職務代理

他にご質問はありませんか。

委員

鶴岡公園正面広場整備の完成イメージを見ると、旧猿舎・禽舎付近まで整備することになるのか。また、バスに見えるが、車も公園の中に入れるように見えるのが気になる。

事務局

完成イメージでは、どうしても車が大きく見えてしまっていますが、実際は四阿がもっと中央に配置されるような形となり、加えて、土塁や二の丸跡といった歴史的な説明を加える予定となります。車がどうしても大きく見える付近は、イベント広場という位置づけになるとご承知おきください。

委員

完成イメージにある車2台は、イベント時に呼ぶキッチンカーである。一般の車が入れる

ようになるわけではない。また、紙面上部にある段差は、イベントにも利用できる木製で耐久性の高い階段をイメージしている。それに伴い、現在のブランコなどの遊具類や藤棚は撤去となる。また、さらにその奥に、芝生広場をつくって金峰石を置きながら遊べるスペースを整備する。なお、交差点付近には高山樗牛像などがあるが、県道整備により歩道部分となるため、場所を移す協議をしている。

会長職務代理

完成イメージでは交差点付近の松は大きく見えるが、そこまで大きなものではない。また、大型バスがこの絵のように停まるとかそういうことではない。

委員

この鶴岡公園正面広場整備のテーマが気になる。歩道と車道的なエリアと芝生エリアとそれぞれがウッドデッキのような部分によって完全に分かれているように見える。このようなコンセプトではなく、逆に一体にしようとかそういう議論はなかったのか。かつてのイメージは、歩道から自然にお堀に行けて、何かの溜まりがあるとかそういう内容であったはず。今の絵は、完全分離に見えてしまっており心配である。この辺の議論はなかったのか。

事務局

園路の部分が、以前の二の丸の堀があった部分と言われております。整備のイメージとしては、園路が堀をイメージしたような流れで作られて、歩道と似通わせた色合いで整備していきたいと考えております。

委員

ある意味で分離が正解という認識だと理解した。

会長職務代理

他にご質問はありませんか。大体意見は出尽くしたようです。皆さまからのご意見を参考に、事務局でそれぞれ対応をお願いしたいと思います。

事務局からは何かございますか。

事務局

(事務局報告：鶴岡市歴史的風致維持向上計画2期計画について)

会長職務代理

それでは、協議事項は以上とし、進行を事務局にお返しします。

5. その他

委員

計画の記載方法で気になったことがある。食文化の記載の位置づけについてなのだが、大黒様の御歳夜の記述が市全体の位置づけではなく、歴史的風致の七日町観音堂の項目の中で記載されている。本来は七日町観音堂だけでなく、山岳修験とも深く関わっており、春を迎えるための大切な儀式として庄内一円で続いているものである。

七日町観音堂の個別の歴史的風致の項目ではなく、市全体の内容として大黒様の御歳夜の記載の位置づけを見直してほしい。

事務局

2期計画策定に合わせて、内容の検討をさせていただきたい。

6. 閉 会

以上